

こども食堂が運営連携

野々市でネットワーク設立

五つの食堂で構成

野々市内の五つのこども食堂が連携する初めての



ネットワークが23日発足した。市社会福祉協議会が事務局となり、こども食堂の開催情報の発信や食材の寄付受け入れ、調達、分配などで協力して安定した運営を目指す。

誕生した「野々市こども食堂ネットワーク」は、ちきそらごはん、nonoi

抱負を述べる各こども食堂の代表

＝野々市市文化会館フォルテ

みんなの食堂、まごころ食堂、みかづき、わいわい食堂の五つで構成する。

23日は市文化会館フォルテで開始イベントが行われ、代表に就いた畠山千起さん（ちきそらごはん）が「地域全体で子どもを支え

たい」とあいさつ。来賓の栗貴章市長が市として支援に努めると述べた。親子ら約120人が移動式プラネタリウムの鑑賞やランタン作りを楽しんだ。一般社団法人「結」、DSGグループがイベントに協力した。



活動紹介をする子ども食堂の代表者たち＝野々市市文化会館フォルテで

野々市内で活動する子ども食堂が連携を深め、情報共有などをする「野々市こども食堂ネットワーク」が23日、発足した。

ネットワークには、市内の5団体が参加し、事務局を市社会福祉協議会に設置。活動内容や開催日時が異なる食堂同士が連携することで、より多くの子どもを受け入れる柔軟な支援体制を築けると考え、1年半ほど前から立ち上げに向けた準備を進めていた。

今後は、社協を窓口にした食材などの支援の受け付け、人員の確保や地域との連携など運営面での課題解消を目的とした情報交換な

こども食堂 連携もっと 「野々市ネットワーク」発足

どに取り組む。

同市文化会館フォルテであつたキックオフイベントでは、ネットワークの代表に就いた「ちきそらごはん」の畠山千起さん（55）が「団体の連携を深めて、子どもたちとその家族に寄り添った活動を展開していきたい」とあいさつ。栗貴章市長が祝辞を述べ、各団体が活動を紹介した。

同市を拠点に子ども食堂の支援に取り組む一般社団法人「結」などによる、移動式プラネタリウムの鑑賞や紙コップを使ったランタン作りもあり、多くの親子でにぎわった。

（中尾真菜）